

一般質問

市政を問う

議員が市政全般について、その事務の執行状況や将来の方針等の報告・説明を求めたり質問することをいい、毎定例会で行われます。

質問者順で掲載しています



手話言語条例の制定

新町浄水場の水害対策

松本賢一 (新風会)

質問 障害者基本法で手話について具体的に規定された点が聴覚障害者対応の重要なポイントであるが、本市での状況は。

答弁 平成26年10月から市役所の窓口には耳マークを設置し、耳の不自由な方に筆談や手話での対応を行っている。職員が円滑に対応できるように、筆談講習会や手話研修を行うとともに、4月からは職員のパソコンに簡単な手話の動画を配信するなど、聴覚障害者が利用しやすい窓口環境を目指し取り組んでいる。

質問 他自治体での手話言語条例の制定状況と本市の今後の取り組みは。

答弁 手話言語条例の制定状況



地域交通の活性化及び再生

都市計画道路整備に伴う安全対策

高橋美奈雄 (市民クラブ)

質問 国は、地域公共交通網形成計画の策定を自治体に求め、支援をうたっているが、市としてどう受け止めているか。

答弁 地域公共交通網形成計画策定のほか、より広い視野での新たなまちづくりの制度として立地適正化計画制度を創設し、立地適正化計画を作成できることになった。本市としては、この制度を活用し都市計画と公共

は10月末で、47都道府県中3県、1741市区町村中19市区町村のみである。群馬県は3月に制定したが、本市を含む12市は、現時点では制定していない。国の動向や他の中核市などの状況を見ながら検討したい。

質問 新町浄水場は水源となる井戸を含め浸水想定区域にあるが、浸水被害の対策は。

答弁 浸水想定区域外にある高架水槽に、給水車から直接送水するための緊急ポンプ設備を設置する方法や新たな予備水源の建設の調査、近隣自治体から緊急連絡管を接続するなどの連携についても早急に検討していきたい。

交通が一体化したコンパクトなまちづくりを進めていきたい。
質問 立地適正化計画作成には、まちづくりの観点からの交通施策の推進などに対して、新たな協議会が必要と考える。現場で働く人や公安委員会等の参画がポイントであるが、見解は。
答弁 立地適正化計画の策定は、交通事業者や観光など関係者との相互連携と地域住民の合意形



手話を取り入れた朝礼風景

成が必要不可欠であり、協議会の議論は課題の共有化が必要と考える。行政部門で十分な研究検討を鋭意進めていきたい。

質問 都市計画道路が部分開通すると交通量が大幅に増加するが、通学路や歩道の整備など安

熱血！高校生販売甲子園

学校司書の配置

白石隆夫 (新風会)

質問 高崎えびず講市のイベントとして開催された熱血！高校生販売甲子園は、大変にぎわっていたが、詳しい内容は。また、今後もしばしば継続をお願いしたい。

答弁 熱血！高校生販売甲子園は、高校生が自分たちで開発した商品を販売し、売上、接客、コンセプト等を競うイベントで、高崎経済大学生が企画運営している。今回、初の全国大会とし

全対策への取り組みは。
答弁 警察署との協議で、信号機やガードレールなどの安全対策を行っている。特に通学路のある地区では、学校関係者や保護者の意見、要望を聞き、周辺道路の安全確保を図っている。

て鹿児島・高知・福島県など9チームと県内30チームの過去最多39チームが参加した。今後も商都高崎で大いに盛り上がるイベントとして定着するように主催の商工会議所に働きかけた。
質問 学校図書館法第6条にある学校図書館専従の学校司書の配置と研修の状況は。
答弁 学校図書館指導員として平成23年度から全ての小・中・特別支援学校に配置し、また、教育センターにおいて実践的な研修を実施している。

質問 青年センターに常設している20台のパソコンは、現在インターネットが使用できないが、数台でも接続できないか。また、トイレの改善も望む。
答弁 昨今のセキュリティ問題からインターネットへの接続は難しい。トイレは、2階の男子トイレを1か所洋式にした。快適に利用できるよう、洋式化について引き続き検討したい。



自主防災組織の組織率向上

グリーンベルトの設置

根岸 赴夫 (新風会)

質問 滋賀県の湖南広域消防局では、消防団員が地域ごとの担当になり、自主防災組織の必要性の説明や依頼をした結果、98・6%という高い組織率を達成した。本市でも消防団員をそれぞれの地域の担当制にする取り組みを行う考えは。

答弁 消防団員を各地域の担当にし、自主防災組織の結成に活躍いただくことは、大変有意義なことと思う。現在、本市にこのような組織はないが、消防団は郷土愛護の精神に基づき、地域の住民と協力して、安心、安全に貢献しているため、どのように進めていくことが本市の地

質問 グリーンベルトの設置は、小学校から半径500メートルの範囲だが、道路幅員の不足などにより設置できない場所への対応は。

答弁 グリーンベルトを設置できない場所の中にも安全対策が必要な所もあるので、地域や小学校などと協議しながら、自動車運転手に対して注意喚起を促す文字を路面に設置するなどの安全対策を講じてきた。今後、危険な地域には、道路の上に凹みを張り付ける手法も併せて導入したいと考えている。



県コンベンション施設建設

伊藤 敦博 (日本共産党)

質問 県が推進する競馬場跡地へのコンベンション施設建設は、税金の無駄遣いとの批判があるが、本市の基本姿勢は。

答弁 本市は、新幹線や高速自動車道などの高速交通網が交差する利便性の高さから県の玄関口としての役割を担っている。利便性を生かし集客都市として発展することは、本市だけでなく県内の企業や諸団体にとって重要で、必要な施設と考える。

質問 多くの市民が当初の県のアンケートで要望の高かった緑地公園として憩いの空間にする方がよいと考えているが、この提案を県に打診することはできないか。

答弁 県全体の発展を主眼に県において整備する施設であり、市として県に対しコンベンション施設についての要望の再確認などの提案は考えていない。
質問 コンベンション施設での



携行用GPS機器

イベント開催時には大量の車両が集中する。加えて音楽ホールや新体育館でのイベントが重なれば、渋滞がさらに深刻になると思うが、本市の対策は。

群馬八幡駅の段差解消

中学生にピロリ菌検診を

木暮 孝夫 (公明党)

質問 群馬八幡駅では電車とホームに30センチメートル以上の段差があり危険である。平成18年にバリアフリー新法が施行され9年が経過しているが、群馬八幡駅は対象外なのか。速やかな改善を求めるが、取り組みは。
答弁 群馬八幡駅の1日の利用者は二千人程度であるため、三千人以上が対象のバリアフリー新法によるバリアフリー化は進んでいないが、高齢者や障害

質問 マタニティハラスメントは法律で禁止されているが、横行している実態がある。本市の認識と対策は。
答弁 雇用差別がない職場づくりには、雇用の安定と公正な労働条件の確保が重要と認識している。市では、就業相談の窓口を設けるほか、ホームページに制度の案内を掲載し、市民や事業者の方に周知している。

質問 高齢者あしんセンターは発足から半年が経過するが、どんな声が寄せられているか。また、どんな対応を図ったか。
答弁 大きな変化だったので多少の戸惑いもあったようである

者にとって鉄道は重要な交通手段であるため、段差解消等の安全確保は必要と考える。JR東日本と協議を進めているところだが、今後も段差解消の早期実現を強く働きかけていきたい。
質問 若年のうちにピロリ菌を

が、小まめに連絡をもらっている、対応が親切で安心との声をいただいている。体制の評価や検証は、介護保険運営協議会での議論なども踏まえ行いたい。
質問 介護をめぐる問題は、さまざまな点があるが、認知症への支援はどんなことがあるか。
答弁 認知症には、早期での診断と対応が求められる。本市では、認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の悪化防止や家族の介護負担の軽減などを実現している。また、はいかいを発症する方に、GPSを利用した機器を携行する高齢者支援システムの運用を新たに始めた。